

New 門

ニュースの門

海外から9万人 高齢者支える

介護現場で働く外国人が増えている。受け入れは2008年に本格的に始まり、今や9万人を超える。ただ、海外との獲得競争は激しく、介護事業者は人材の確保とつなぎとめに知恵を絞る。

リーダーや管理職担う人材も

「おいしいですか」。11月上旬、横浜市の特別養護老人ホーム「第2新横浜パークサイドホーム」。インドネシア出身のジュルフィカル・アディ・ウィラワンさん(38)が、入居者の口元にお茶を運び、話しかけた。

母国で看護学校を卒業後、11年来日。介護職員として働きながら日本語や介護技術を学び、15年に国家資格の介護福祉士に合格した。現在、同じフロアの職員をまとめるリーダーとしてケアの方針を決め、後輩を指導する。入居者の信頼も厚い。「転倒などのトラブルの解決法

を話し合ったり、調べたりして勉強になります」と言う。

同ホームは09年から、将来的な人手不足を見越して採用を始め、今では職員の7割が外国人だ。牧野裕子施設長は「優秀で意欲的だ。彼らの力を借りないと仕事が回らない」と語る。

介護現場で働く外国人は全国で9万1600人。東京都内の施設を対象にした24年の調査では、7割が外国人を採用し、職員の30%以上を占める施設も6.8%ある。全国的には、施設長や副施設長などの管理職を任される人材も現れている。

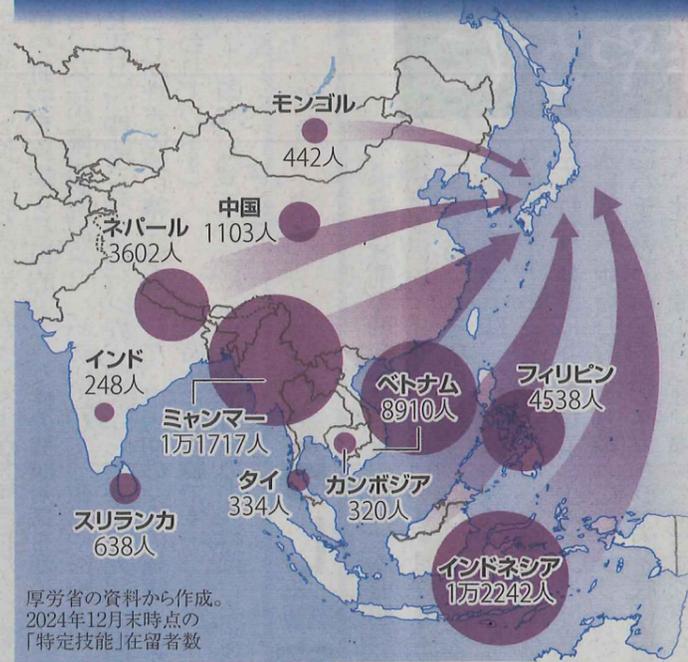
「特定技能」制度で受け入れ急拡大

外国人が介護現場で働く方法は4種類あり、08年の経済連携協定(EPA)が始まりだ。インドネシア、フィリピン、ベトナムとの間で結び、現地の看護学校の卒業生らを介護福祉士の候補者として受け入れてきた。一定以上の知識を持つ人材が見込めるが、年間で各国300人の上限がある

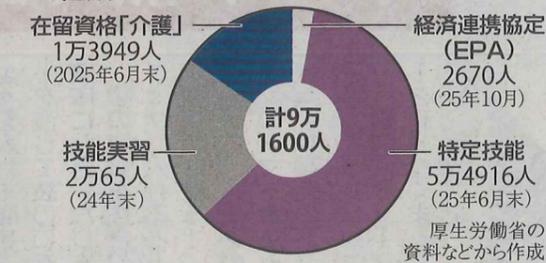
けられ、受け入れは一気に広がった。日本語と介護技術の試験は国内のほか、ミャンマーやタイなど13カ国で行われている。

外国人材は、在留期間内に介護福祉士に合格すれば、永続的に日本で働ける。家族の帯同も認められ、長く日本で働くことが期待できる。国は、受験のハードルを下げようと問題文の

アジア各国からの「即戦力」人材が介護現場で働く



外国人が日本の介護現場で働く仕組みは4種類



外国人の介護福祉士は増えている



取って働く外国人は約1万4000人と、着実に増えてきた。

世界で獲得競争

国の推計では、高齢者数がほぼピークとなる40年度には272万人の介護職が必要で、今のままでは57万人足りない。外国人材への期待は大きい。

働き手が欲しいのは海外諸国も同じだ。介護分野などの人材の獲得競争は、激しさを増している。国の24年度の委託調査では、特定技能人材の送り出しに

積極的な11カ国のうち、働く先に日本を選ぶ人の割合はベトナムが50%だが、多くの国で1割に満たなかった。インドネシアでは、香港と台湾を選んだ人が各3割程度と、日本(2.9%)を大きく上回る。

安定した人材確保のため、介護事業者みずからが海外の学校や自治体と連携し、人材を育成する動きが進む。

日の出医療福祉グループ(兵庫県)は22年、インドネシア政府と協定を結んだ。現地の職業訓練校に、介護技術を教える専門

職を派遣。すでに卒業生100人をグループの施設に受け入れた。

SOMPOケア(東京都)は昨年、介護を学ぶ施設をインドに開設。長年、東南アジア諸国から採用してきたが、若い人口の多いインドに着目した。

来日した外国人材に満足度の調査をしている東海大の万城目正雄教授は「日本のしっかりした技術指導や語学教育、きめこまかな生活指導が評価されている。選ばれるには、魅力をさらに高め、アピールする必要がある」と指摘する。

社会部 小沼聖実

社会保障担当。認知症や障害のある人の暮らしに心を寄せる。社会福祉士資格を持つ。



MEMO

高い言葉の壁

来日した外国人材が安心して働き、定着できるように、第三者機関が受け入れ施設を巡回訪問し、相談にも応じている。

高いのは言葉の壁だ。公益財団法人「介護労働安定センター」(東京)の24年度の調査では、「コミュニケーションが課題」とした施設が4割に上った。

「褥瘡」「麻痺」といった専門用語が難しい上、業務の記録など、手書きを求められる機会は多い。高齢者や家族らとの円滑なコミュニケーションが大切な仕事でもある。

方言のハードルもある。横浜市の施設で働く、インドネシア出身のアンディ・スハンディさん(38)が、最初に勤めたのは徳島県の施設。1年間、日本語を学んでから赴任したもの、「みんな阿波弁。分からない言葉を一つ一つ聞いて、勉強し直した」と苦労を明かす。

福井県は昨年、来県する予定の外国人を対象に「福井クラス」を始めた。交通や買い物などの生活事情や県の風土を伝えるオンライン講座で、地元テレビ局のアナウンサーが福井弁を教える時間もある。県の担当者は「働くイメージが湧くと好評だ。県に愛着を持って長く働いてもらえるようにしたい」と話す。